

あの人・その品・この工場

ハム・サービスの三田無線研究所を訪ねて

使いよさと高性能、それと斬新なアイデアで斯界をリードするデリカの製品は、どんな管理のもとに生まれるのか。　　今月はその三田無線にスポットをあててみた。

本誌　本誌さっそくですが、私も中学時代からラジオ雑誌を愛読したものです。所長さんの筆歴はずいぶん長いわけですね。

茨木　そうですね。昔は“無線と実験”によく執筆していましたが、もう35年ぐらいになりますか。芝浦の仮放送所時代からラジオをいじり、またそれを商売にもしていたんですから、古いことにかけては自信がある。この間無線雑誌をみていたんですが、30年前のころと、同じ人間が、同じ会社を経営しているということは実に少ないですね。私を入れて5人はでないと思います。

本誌　息が永いこの原因は、所長みずからが実際に研究所にたち、現場の人にまじって機械をつくり、ハンダ^{こて}鑊をにぎり、外国文献をあさる　ということによるとと思いますが、会社の経営より面白い？

茨木　そりや面白いですよ。でなければ、この年齢をして、ハンダ^{こて}鑊はにぎれません。私はね、会社の経営というものには、あまり興味がない。自分でいうのはおかしいんだけど、つまり商売気がないんです。だから自分では毎日好きなことをしてたのしんでいます。

たとえば、営業のいうところによると、アマチュア向の仕事というものは利益が少ないらしい。普通のメーカーが手をださないのは無理がない。それを私はやる。

本誌　所長に商売気がなくて、利益の少ないアマチュア向のものをだしていたんでは、会社がおかしくなりませんか（笑）。

茨木　ご心配ありがとうございます（笑）。幸いうちでは官庁や、研究所相手の仕事があり、この方で大分利益があるらしいです（笑）。だから私がいくらいたずらしても、文句がこない。

本誌　そりやアマチュアには心強い。

茨木　そうですね。実際、アマチュアの方が〔アメリカの〕QSTや〔アメリカの〕CQ誌をみると、ほしい物ばかりならんでいる。

本誌　あれは実にうらやましいですね。

茨木　そういう欲求を満たしてあげたいと思うんです。広告されれば、さっそくデータを取りよせ、なんらかの形で実現させる。

本誌 機種としては何種類ぐらいたしているんですか。

茨木 このカタログを見てください。

本誌 ずいぶんだしていますね。10種以上。

茨木 このうち、ヘテロダイン周波計や、グリッド・デップメーター、Qマルチプライヤーなどは、実にタイムリーだと思いますね。

本誌 こういうタイムリーな つまりハムのその時の要求にただちにこたえられるというのは、所長自身のアマチュアイズムの面目があらわれている一面ですね。

茨木 私は学校を卒業してアメリカにいきましてね、あそんでいるうちに、日本でも放送開始だから帰ってこいという電報がきたんです。そこで自分の持ち金全部をはたいて、ラジオパーツを買いあつめて帰ってきたんです。それをもとに三田台に茨木悟研究所というのを作ったんです。まだいゝが葉坊主時代ですよ。そののちJOAKから放送が開始され、当初みんなヘッドホンできいたり、ちょっと頭のいいのがどんぶりの中にヘッドホンを入れて音を拡大してきいている。

本誌 つまり一種のスピーカーですね。

茨木 それを私が真空管を使って、ラッパをつけ、これをワン・セットにしていただしたら、物凄く売れましてね。大分もうかりました。クリヤホーンと名をつけたんですが、これが契機で、茨木悟研究所を引込めまして、クリヤホーン商会としました。

本誌 それから三田無線。

茨木 大正14年4月ですね。DELICA というのは、Delicacy とか Deicate という言葉の頭6字だけをつかったんです。

本誌 はじめはどんな品物をあつかったんですか。

茨木 官庁相手ですね。アマチュア関係のものをはじめたのは5、6年前です。ただそういう生産態勢に入れるために資料だけはたくさんあつめておった。だからハム無線再開と同時に、パッとモノをだせたわけです。

本誌 現在、所長傘下のサムライは何人ぐらいですか(笑)。

茨木 40人ぐらいでしょう。大部分が私の知りあいなんです。

本誌 すると非常に家族的なムードが感じられるわけですね。つまりお互いに気心が知れているから、非常に仕事がやりやすい。

茨木 ええ、私の茨木悟研究所以来、ストは一回もありませんね(笑)。それに私の信条として衣食住が十分でなければ、満足な仕事はできないと思っていますから、見掛けは、こんな小さな研究所でも、社宅を持ち、ある人々には土地つき

の一軒家をあたえているくらいです。

本誌 これはうらやましい話した。まったく最近は何もたりて住なき　です
からね。片手おちです。

茨木 それに私は人を大切にします。あそこで働いている年寄りの人など、茨木
悟研究所以来の仲間です。当社のはえぬきですね。ああいう人ははなしたくない。
経験をつんだ人というのは、実に貴重なものです。熟練の士を集めて一台一台責
任をもって入念に仕上げていくのがうちのやり方です。

本誌 しかし、現在はどのメーカーでも、オートメーションという問題を取り
あげて、仕事を細分化し、経験のない人にでも、とにかく十分満足する機械が生
産できるような方向に進んでいます。

茨木 そう、たとえば、アメリカなんかはそうですね。たけどね、こういう話
しがあるんです。自動車のマグネットのことですが、アメリカとドイツのボッ
シュという会社のものを比べてみると、ボッシュの方が材料費がやすく、燃料消
費量も少なく、能率がいい。スイスの時計にしてもそうだ。とにかく彼等はア
メリカ式ないき方を止めて、一個一個入念式を採りあげています。生産量は少な
いかも知れないが、できあがったものは無比の優秀さだ。その国情にあった方式
をとっていかねばね。日本がアメリカ的ないき方を真似したってかないませんよ。

本誌 フィリップスや、グルンデツヒなどはずいぶんこったものをだしていますね。

茨木 あれなんかは一つのいき方を示しています。5球スーパーをみたって、こ
れが5スカと思うくらいに手がこんでいる。あの、仕事の細かさといったらすば
らしいもんです。日本人は手先が器用だといわれている。その長所を作りあげ
るモノの中にふんだんに組み入れて、世界中があっと驚くくらいの機械的精密さ
をうたう。人間がたくさんいるということは、ある種の資源ですから、これをう
まく使うわけです。機械ではできない仕上げをするわけだ。DELICAという言葉
も、こういううちのいき方を象徴しているわけです。

本誌 工場をみせてくれませんか。

茨木 どうぞ、ご案内しましょう。

本誌 このバリコン　実にいいですね、こんなの街では売っていない。ハマ
ランドのものなんか材料といい、構造といい、実ににすばらしいのを使っている。
あれ一つを取りあげても超精密の機械という感じがする。つまり、無線機器一般
の生死を決するのは、バリコンだといってもいいくらいですものね。

茨木 このバリコン　うちでとくに作っているんです。バリコンにしる、ギ
ヤー、コイルなど、重要なところは、みんな自家製ですよ。でなければいいもの

はできあがってきません。

本誌 こうしてみると、ベルトコンベアなんかはみあたりませんね。

茨木 ええ、2、3人ぐらいが一つのグループを作って、一台の機械を作りあげていますからね。ですから全員が機械屋であり、電気屋でありというわけです。いい機械を作るのはこの両者がマッチしておらねば。

本誌 このビニールのコイルカバーおもしろいですね。うまいアイデアだ。

茨木 この材料の熱を加えることによって収縮するという性質を利用したにすぎないんですが、このことによって、コイルを傷つけることが急激にへりました。

本誌 ところで所長さん、今後もアマチュア向の品物をどんどん開発してくれるんでしょうか。

茨木 そりゃやりますよ。アマチュアの要求があれば、どんな種類のものでもだしていきます。

本誌 ハムのためサービスステーションみたいなのはお考えですか。

茨木 それにはもう少し暇がないとね。しかしおいおいこういう方面にまで手をのばしたいですね。アマチュアというのは、実に得がたいお客さんであると同時に、よきアドバイザーですからね。一つの機械で十や二十の応用を軽くやっただけのける、こういう人を相手にするんですから、私もやりがいがあります。

本誌 老いてますます盛んですね。アマチュアにとつては、朗報です。

三田無線研究所・所長 茨木 悟

明治 33 年 2 月愛媛県に生れ、アメリカに渡ってシカゴ大学で研究。大正 12 年帰朝。若くして茨木悟研究所を設立、後クリヤホーン商会をへて、大正 14 年 4 月三田無線研究所をつくり、所長に就任、現在にいたる。昭和 12 年パリで開催された芸術と技術の博覧会にいまでいう Hi-Fi 装置を出品し、6,000 台の中から金メダルを獲得したことは有名。

PDF 化にあたって

本 PDF は、

『電波科学』(1958 年 3 月号)

を元に作成したものである。

- ・PDF 化にあたり、旧漢字は新漢字に、旧仮名遣いは新仮名遣いに変更した。
- ・記事中に挿入されている写真は省略した。

ラジオ関係の古典的な書籍及び雑誌のいくつかを

ラジオ温故知新

<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/munehiro/>

に、

ラジオの回路図を

ラジオ回路図博物館

<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/radio/radio-circuit.html>

に収録してある。参考にしてほしい。